様式2　令和5年度　清瀬市立清瀬小学校　学校評価表

学校教育目標

元気な子・考える子・協力する子・仲良くする子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　○学び続け、進化し続ける学校　○振り返りから改善を生み出せる学校
【目指す児童・生徒像】　○志をもつ子供
【目指す教師像】　○子供を育てるプロ集団○指導力向上への惜しまない○日常的な危機管理意識
○業務の効率化○公費及びコストへの意識

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

【育成を目指す資質・能力】
○確かな学力　○学びへの関心・意欲　○豊かな心としなやかで強かな心　○運動習慣と体力
○特別支援教育への理解　○地域愛・郷土愛、社会貢献意識
【特色ある教育活動】
①地域と連携した教育の推進　②生命尊重教育の推進
③個別最適な学びの具現化　④子供たちの学力保障

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】授業でのタブレット端末の活用や会議での活用が促進され、個別最適な学びの具現化や校務改善を図ることができた。
【課題】児童の自尊感情の意識化や特別支援教育の取組に対する保護者への情報発信についてより方法を追求する必要がある。

柱	具体的方策	自己評価 評価 取組指標	自己評価 評価 成果指標	自己評価 課題及び次年度以降の改善方策（案）	学校関係者評価 学校関係者による「自己評価」についての評価	次年度以降の改善方策 学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	○タブレット端末活用の必然性を認識できるよう授業で積極的に活用する。 ○SNS清瀬小ルールを充実させることにより、子供たちの健康被害が起きないよう指導する。	4	4	【課題】86%（教員調査結果）の学級で日常的にタブレット端末を活用できているが、学年によって使用頻度が異なる。 【方策】低学年から計画的にタブレットを活用した授業を展開する。 【課題】日頃からSNSルールを意識させることが薄くなっている。 【方策】児童会活動を中心としたSNS清瀬ルールの徹底および、セーフティ教室を今後も実施し、SNSの正しい活用方法を学ばせる。	・タブレット利用の授業が定着したと感じた。タブレットの正しい利用の指導してほしい。 ・各学年タブレット端末を上手に使った授業をしていると思うがSNSの正しい使い方を学ばせる必要があると思う。	〔方策〕低学年から積極的に学習のねらいに沿った活用に努めるとともに、SNS清瀬小ルールを徹底させること（特に授業外でのタブレットなどの利用ルール）や保護者への啓発活動を行い、情報モラルの向上を図る。
	○「清瀬小学習指導ガイドブック」を活用した授業実践を行う。 ○清瀬中学校との連携を図れるよう情報発信を行う。	2	4	【課題】日々の授業でガイドブックを十分に活用できなかった。 【方策】ガイドブックの実践を週ごとの指導計画に記入し、週1回は取り組むようにする。 【課題】中学校授業体験や運動会などで交流はあったが、日常の授業を参観する機会がなかった。 【方策】次年度から始まる小中連携教育関連事業を有効に活用する。	・ガイドブックを使用する仕掛けが必要であると感じる。 ・行事だけではなく普段から連携ができるようになるとよりよい取組になる。	〔方策〕教員がガイドブックを意識し、授業実践が行われるために、週ごとの指導計画にガイドブックの活用について記載をさせ、常に意識をさせる。 運動会や様々な行事において中学生のボランティアの活用を位置付け、積極的な参加を促す。さらには、中学校に働きかける活動を視野に入れ、連携に努める。
豊かな心の育成	○いのちの学習を作成・実践するとともに、教師や友達、学級等からの声かけ・賞賛・価値付け等の取組を設定し家庭にも知らせる。	3	4	【課題】校内研究に位置付け、いのちの学習を実践することはできた。保護者に周知していくことが課題である。 【方策】学校ホームページをはじめ、学校だより、学級通信でも取り上げるようにしていく。	・いのちの学習は大切なので様々な方法で保護者に周知をしてほしい。	〔方策〕学校ホームページをはじめ、学校だよりでも一つの柱を立てて、定期的に取り上げるようにしていく。
	○定期的ないじめ予防策を講じ「いじめ見逃しゼロ」を徹底する。 ○家庭へのいじめに関する情報発信を行う。	4	3	【課題】毎月「いじめ防止対策委員会」を開くことで、情報共有はできたが、長期化する事案もあった。 【方策】ふれあい月間だけでなく、定期的に面談を実施、児童の実態を把握する。 【課題】具体的な取組を家庭へ発信することが十分でなかった。 【方策】学校だよりで、保護者に取組を発信する。	・いじめの対応は難しいと思いますが、子供にとってはずっと心に残ることなので家庭との連携も大切にしてほしい。 ・スクールカウンセラーの存在をもっとアピールして相談しやすい環境をつくる等の対策も必要である。	〔方策〕スクールカウンセラーだよりを年間1回から、学期の始まりの3回の発行にする。児童の気持ちが不安定になる時期にスクールカウンセラーの存在を周知することで、児童、保護者が相談をしやすい体制にしていく。
健やかな体の育成	○体育授業では、集合する回数を必要最小限とし、話合いの時間短縮（ワークシート等の工夫）や指示の精選を行い、運動時間を20分以上確保する。	4	4	【課題】運動量の確保はできているが、話し合いの時間短縮は十分な成果を上げられなかった。 【方策】集合する回数を授業の導入と展開の2回にして説明する時間を短縮する。	・体育は座学ではないので、できるだけ体を動かしてほしい。実際に体を動かして様々なことを習得していくことのできる体育授業の工夫をお願いしたい。	〔方策〕】掲示物や学習材を工夫をすることで、集合する回数を授業の導入と展開の2回にして説明する時間を短縮する。そのために学習規律を確立させ、スムーズに学習に取り組めるようにする。
	○運動集会等の充実と体育授業における「めあて」と「振り返り」を行い課題解決型の学習を行う。	3	3	【課題】全体のめあては明確だが、個別にめあてを立て、振り返ることが十分にできていない。 【方策】自分のめあてを立てさせ、振り返りに取り組ませる学習スタイルをつくり実践する。	・以前の運動会と比較されることもあるが、今の方法はとても理解できる。体育の授業の充実をお願いしたい。 ・コロナ禍で今までできなかったことが少しずつできるようになってきたことは良かった。各自、めあてと振り返りができるように指導してほしい。	〔方策〕学習課題を意識し前時までの学習内容を生かしたねらいの提示をし、子供たちが自分の言葉でめあてを立てることができるようにする。振り返りでは、「やったこと」の羅列にならないよう、「できたこと」を記述させることで、学びの手応えを実感できる振り返りをにしていく。
特別支援教育の充実	○授業観察シートを活用して、分かる授業を展開する。（分かりやすい板書、発問の精選、個に応じた学習方法）	4	4	【課題】ユニバーサルデザイン化した授業の意識は高まってきたが、個に応じた学習方法の充実が必要である。 【方策】特別支援校内委員会や校内研修を定期的に実施し、指導方法について研究をする。	・特別支援教育は個々の特性に合わせる必要がある。個々のニーズに合わせた学習が保証されるようお願いしたい。 ・より一層の「分かる授業の展開」をお願いしたい。	〔方策〕特別支援校内委員会や校内研修を定期的に実施し、R4の研究の成果を生かして「個別最適な学び」の指導方法について実践をする。
	○月1回以上の取組と情報発信を行う。	4	2	【課題】毎月学校だよりにて取組ついて発信することができている。しかし、保護者の満足度77%に留まっている。取組が指導へ生かされていない部分がある。 【方策】きらりから発行される通信を活用し、指導の啓発を図る。	・取り組みと同時に成果を発信する必要がある。	〔方策〕毎月の学校だよりで情報発信を行うことは継続する。また、ホームページの「学校生活の様子」に特別支援教育についての記事を各学年から掲載する「特別支援教育紹介週間」を設けて、取組と成果を保護者に発信する。
本校の特色	○年間指導計画に則って、地域人材や地域資源を活用した学習を月1回以上実施する。	3	4	【課題】どのような場面で、地域と地域資源が使えるか、今後も検討していく必要がある。 【方策】学年ごとに、地域資源を活用した学習を意識して活用し、年間指導計画に追記していく。	・地域の人材・資源を探し出すことは大変である。今後のコミュニティスクールに期待をしている。 ・これからも地域と関わりながらの学習は必要である。	〔方策〕学年ごとに、地域資源を活用した学習を意識して活用し、年間指導計画に追記していく。また、連絡先などを登録する「ボランティア人材バンク」を作成し、年度が変わっても地域と学校が積極的に情報交換ができるようにする。
	○年間指導計画に則って、地域に働きかける取組を全学年で実施する。	3	3	【課題】年間指導計画に確実に明記し、年度ごとに更新していく必要がある。 【方策】年度終わりに年間指導計画を見直し、次年度の取り組みを再考する。	・全学年で様々な地域のゲストティーチャーを活用した体験的な学習が行われている。今後もより一層の充実をお願いしたい。	【方策】「いのちの学習」と関連させながら、年間指導計画を見直し、次年度の取り組みを充実させる。学年による偏りが出ないように地域、校内の地域コーディネーター、学年が連携をとり、すすめていく。